

# ワクワク農村 丹波篠山!

PART 2



なぜ、スタンプラリー

リポーター おさしお 置塩ひかるさん

こんにちは！ワクワク農村モデルプロジェクトコーディネーターの置塩ひかるです。丹波篠山にある、たくさんの「ワクワク(おもしろいこと、楽しいこと、みんなの笑顔が輝くこと)」の種を見つけ、地域の皆さんと一緒に盛り上げる活動をしています。

2回目となる今回は、西紀北地区と、今田地区の取り組みを紹介します。



人が好き まちが好き  
街かど Report

インタビュー

「今田ぐるっとスタンプラリー」プロジェクトリーダーの大西兆司さんに企画に込めた思いを聞いてみました!

まち協での取り組み

2〜3年前に、今田まちづくり協議会の活動に参加された大西さん。「まち協って、こんなにたくさん活動をしているんだ」と驚いたそうです。「まち協では、

大西さんがこの企画を考えたのは、他地域で開催されていたスタンプラリーに家族と一緒に参加したときのこと。そこで、スタンプラリーの「押す楽しさ」「巡る楽しさ」を実感し、今田地区でイベントをしてみてもどうかと考えられたそうです。「子どもたちにとって、冒険するようなワクワク・ドキドキ感」は記憶に残りやすいし、大人にとっても、新しい場所を知るきっかけになります。また、今田地区にはお店も多くあるため、まち全体を巡ってもらいたい、さまざまな店舗を知ってもらいたい」と、そんな思いで企画されました。

新企画!

今田ぐるっとスタンプラリー

今田

昨年11月3日、今田町で開催された「今田ぐるっとスタンプラリー」。4つのメイン会場をはじめ、22の協力店舗にスタンプが設置されました。メイン会場では、アクセスラリーや竹あかり作りなどの体験、お弁当やコーヒーの販売、フラダンスやよさこいチームの出演など、企画が盛りだくさん。市外、市内の他地域からも多くの参加があり、なんと2000人も来場者でにぎわいました。



「今田ぐるっとスタンプラリー」プロジェクトリーダー 大西兆司さん

子どもの見守り隊をはじめ、みんなの暮らしを支える取り組みが行われています。少子化や過疎化による担い手不足などの課題もありますが、先輩方の知識や知恵を引き継ぎながら、まちを盛り上げたいと思うようになりました。

まちづくり協議会として取り組むことで、世代を超えて、みんなでつくり上げる喜びを共有したいと考えられている大西さん。「最初から、うまくはいきませんが、動かなければ変わりません。やってみて、次どうするか、皆さんと相談しながら進めていきたい」と、熱い思い話されました。ある会場で行った「餅まき」。神社での昔ながらの光景ですが、大人も子どもも、大盛り上がり。伝統を引き継ぐもの、新しくつくるもの、掛け合わせるもの...さまざまなワクワクのヒントが詰まった本企画、これからが楽しみです!

3年ぶりに復活!

楽市楽座

昨年10月16日に開催された西紀北地区の味覚収穫祭「楽市楽座」。4自治会が連携し、名物の「にしき鍋」をはじめ、丹波黒枝豆や丹波栗、新米、柿、さつまいもといった秋の味覚でお祭りを盛り上げました。地域おこし協力隊の出店ブースでは、手づくりのお菓子やポップコーンの販売があり、子どもたちが集まっていました。

西紀北



ワクワク農村 未来プランとは?



丹波篠山市に暮らす一人ひとりがワクワクできるまちづくりを進めるため、令和3年度から、市内12地区をモデル地区としてプロジェクトが進行しています。この冊子は、その手引きとして作成されました。自分たちの集落でできそうなこと、ワクワクアイディアのヒントに、ぜひご覧下さい。

市内のワクワク、紹介しています! まるいのTV YouTubeチャンネル 「ワクワクコーナー」



Instagram 「ワクワク農村 丹波篠山」



ぜひ、チェックしてみてください